



◆一般投稿作品◆

広報委員会 選

野面積みしたる古本さくら散る
デイに行く春のこんだてありがとう
ハッピーや切手が当たる年賀状
山肌にひときわ目立つ山桜
担ぎ売る竹の帯に触れし枇杷
車窓から見る古里の山笑ふ
近友や揃いし早夏ボケ防止
帰りたき故郷遠し麦の秋
春の風弁当囲む姥桜
水張田となりて水路の嵩たかし
春日和正確無比の腹時計
春寒し救急車にて入院す
花おわり一段ギアを操作する
五月空アンテナばかりの空となり
解体を俄に決めし寒の朝
子の寝息みださぬほどに遠蛙
◆とさやまだファミリア◆
古寺の小雨にぬれしカタツムリ
爛漫の孫とひ孫の桜道

明石 隼生
荒木 景子
伊藤 清子
五百蔵利美
大岸由起子
岡本 初美
久保 和子
利根 弘子
な ず な
中村 定子
中西 和人
畠山 千江
原 茂
宮地 美代
森本多賀子
山崎 寿美
山崎 貴子
青竹の子
恵美子

登下校傘にかくれて歩きだす
春風に揺られて下る花筏
ああ早いもう三度目のこどもの日
折紙で赤黒鯉折りひ孫待つ
祖母おもい口をすぼめて梅を干す
青い空卒寿を芽出て春の風
巳の刻に水面に咲いた睡蓮花
◆「涛光」グループ◆
万歩計みては植物園の春
ひねもすに妻のため息めかり時
盆梅や老舗百年昼御膳
春の宵一碗の酒もてあます
雑草という名はあらず春爛漫
青葉濃し母の香りの残る部屋
物の影残し溶けゆく今朝の霜
さまざまに虫の声きく狭庭かな
すがれ虫声の限りに闇拡げ
白鷺の飛び立つ水辺小春風
鉄筋の朽ちし根元に石路の花
黄落や心のままに一歩き
身を寄せて土筆背比べ睦まじく
吾の期待受けながら父大根蒔く

霞 草
けいこ
西 香
雅 子
曼珠沙華
八王子小太郎
花 坂
秋山 英身
茂野 光正
原 恭子
秋 星
大場比奈子
溝淵 龍泉
井上 佐和
東 月
山岸 孝子
中橋 京子
小松 美鶴
藤本すみ子
明神かおり
吉川 恵樹
乾 真紀子
佐竹 洋子

◆かほく俳句会◆

わが背丈越えて盛りの花大根
白牡丹凛と寄り添ふ年尾句碑

佐竹 洋子

香美アートアニュアル vol. 12 ー混迷の時代の中でー

6月5日(水)～7月21日(日)

休館日／毎週月曜日
(月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館)

【関連企画】

- ① 館長または学芸員による作品解説(展示室)
会期中毎日曜日 14時～
- ② 出品作家によるシンポジウム(展示室)
7月21日(日)14時～16時

香美市立美術館

アートの窓



「香美アートアニュアル」は、地元高知に縁のあるアーティストを紹介する企画で、香美市立美術館独自の企画として平成25年から続けています。12回目となる今回は、野町直文、中平美紗子、Marchy、宮川遥弥、古田洋志、檜垣文乃の6名による絵画やアニメ、現代アート、ファイバーアートなどを展示します。

(館長 都築房子)



Marchy 「FLOWER 0.1」

2024年



中平美紗子 「Crossing」

2023年



野町直文 「R」2015年

香美市森林環境税活用事業

申し込みいただいた方からの投稿を募集しています！！

かみんぐBABY木のギフト

『木のギフト』お便り紹介

かしお きこちゃん・みつなりくん・さわちゃん

木のおもちゃは、プラスチックなどのおもちゃと違って温もりがあり、遊んでいる子どもたちを見守る親も、なんだか不思議とあったかい気持ちになり癒されます。

それぞれのつみにきに木の名前が書いてあり、色々な木の香りがするのも面白いです。素敵なプレゼントをいただき、ありがとうございました♪



※香美市から木のギフトを受け取られた皆さんからのご感想、写真を募集しています。投稿者の氏名、写真、写真に映っている方の名前(ペンネームで構いません)、感想を、下記のメールアドレスまでお送りください。

香美市の赤ちゃんに『木のギフト』をプレゼントしています。詳しくは、新生児訪問の際にお渡しするパンフレットまたは、香美市ホームページ内の特設ページをご覧ください。

【問い合わせ先】農林課林政班 ☎52-9283 ✉rinsei@city.kami.lg.jp



俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。

▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。

〒782-8501 (住所記載不要) FAX 53・5958
投稿先 総務課内広報委員会事務局 俳句・短歌係

今月のキラリ

広報委員会

春風に揺られて下る花筏

花筏(水面に散った桜の花びらが、連なり流れてゆくさまを筏に見立てている)は、近くの小川や水路に桜の花が散り、重なり連なっているなかなか動かないが、春風が吹くたびにゆっくりと揺られ流れて行く。のどかな情景が目につく。詩情豊かな美しい一句。

なお、晩春に葉の中央に淡緑色をした3ないし4弁の小花をつけ、これが花を乗せた筏のように見えるので「花筏」という名の植物もある。

(季語：花筏(春)・春風(春))

筍の煮物ばかりの夕餉かな
水田の家鴨寄添い春の雨
見慣れたるこの山里の春の暮
春風にスカーフひらりお散歩中
眼が霞み記憶が霞む春霞
雑草を探りさぐりて芹を摘む
花は葉にぷくぷくと山膨らめる
春耕に祖父の正装頬被り

津田吾燈人
津野 勝子
野村 里史
古川 信子
宮崎ただし
宗石 愛喜
山崎かずみ
山崎 鈴子